

U.S. Indicators

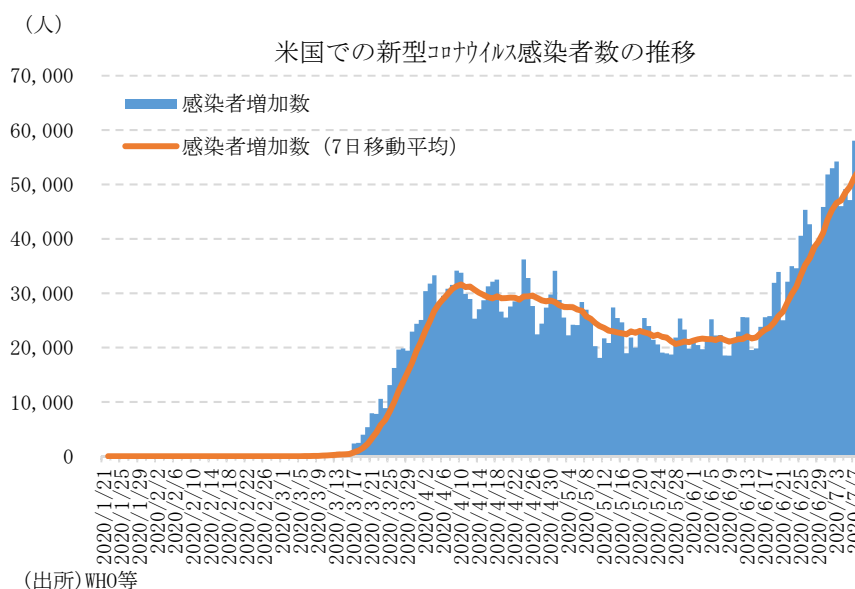
発表日: 2020年7月10日(金)

米国 感染者急増でも7月初の総失業者数は減少

～失業者の減少ペースは鈍化へ～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:03-5221-5001)

4月末から5月21日かけて50州全てでロックダウンの段階的な解除が開始され、その後も多くの地域で解除が続いていることから、労働市場は回復傾向を迎えると予想される。しかし、新型コロナウイルス感染者の増加ペースは、経済活動を優先した拙速なロックダウン解除、自己中心主義者のマスク不着用、3密を考慮しない行動などによって再加速している。米国での7月9日時点の新型コロナウイルスの累積感染者数は315万人、死者数は13.4万人を超えた。このため、感染拡大を防ぐためにソーシャルディスタンスを維持・強化せざるを得ず、労働市場の回復ペースは抑制されると見込まれる。



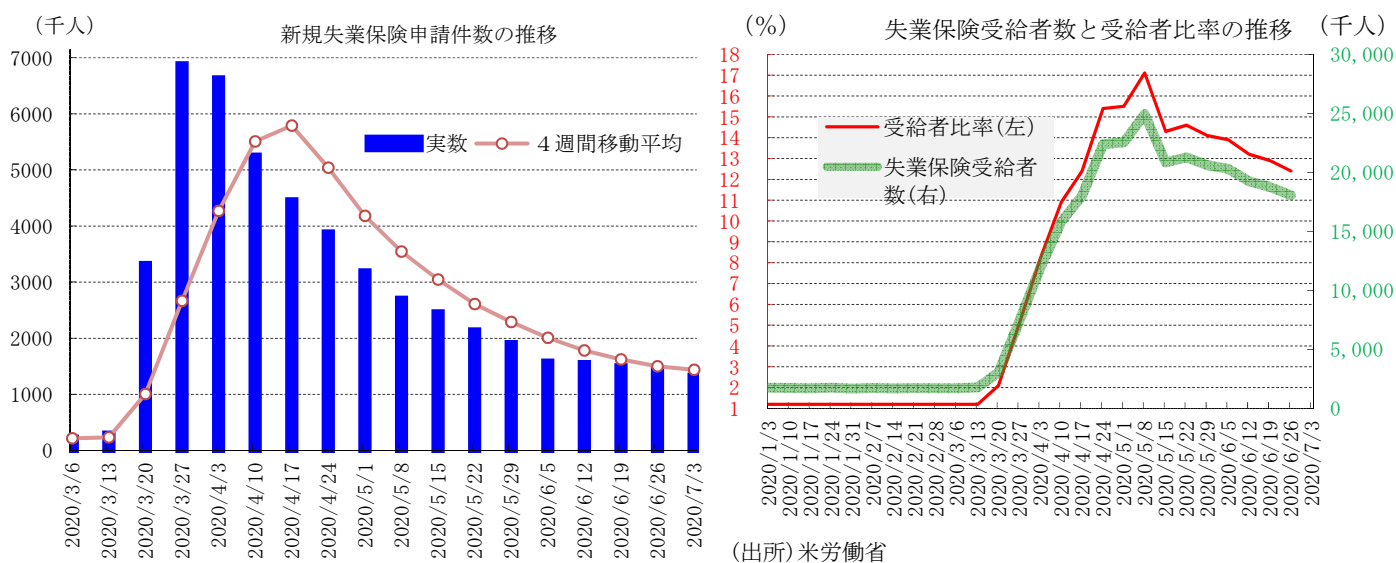
7月4日までの1週間の米新規失業保険申請件数(季節調整済み)は、新型コロナウイルス感染者数の増加ペース急拡大のもと、限定的な経済活動の再停止にとどまっていることから、131.4万件(前週141.3万件)、前週比9.9万件減と14週連続で減少した。しかし、16週連続の高水準となった。より変動の少ない4週移動平均(季節調整済み)でも前週比6万3,000件減少したが、143万7,250件と高い水準にとどまった。

6月27日までの1週間の失業保険継続受給者数(新規失業保険申請件数より公表が1週間遅い)は1,806.2万件、前週比▲69.8万件減少した。また、同週の失業保険受給者比率は12.4%(前週の12.9%)と低下した。ただし、失業保険継続受給者数、失業保険受給者比率ともに依然として高い水準にとどまっている。米国の失業率は、6月に11.1%と4月の14.7%をピークに低下し、7月も小幅

低下するが高い水準にとどまると見込まれる。

州別の新規失業保険件数では、経済活動再開によって申請件数は減少しているが、高い水準。外出制限の解除時期のほか、その緩和の程度、人口の違いによって州ごとに差がでており、7月4日に終わった週の状況をみると、人口が最大で感染者数が急増しているカリフォルニアが26万7,123件（前週比▲1万239件）と、引き続き高い水準となった。次いで、テキサスが11万7,244件（前週比+2万651件）、ジョージアが10万3,590件（同▲1万3,895件）、ニューヨークが9万3,797件（同+3,963件）、フロリダが6万7,070件（同▲1万7,300件）と続いた。

前週から増加ペースが加速した州は、多い順にテキサス（前週比+2万651件）、ニュージャージー（同+1万8,719件）、ルイジアナ（同+9,931件）、メリーランド（同+9,874件）、ネバダ（同+5,059件）、テネシー（同+4,299件）、ニューヨーク（同+3,963件）となり、前週の25州から23州に減少した。一方、前週から減少した州は、多い順にインディアナ（前週比▲2万741件）、フロリダ（同▲1万7,300件）と続いた。ただ、テキサス、フロリダ、アリゾナなどでは感染者数の増加ペースが加速しており、これらの州の失業者は再び増加する可能性がある。



(出所) 米労働省

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

